

阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会 研究報告会

フォーラム「大震災の教訓を活かすために」

＜東京会場 配布資料＞

平成9年1月22日

主 催：土 木 学 会

登 録	平成 9 年 3 月 ¹⁹ 日
番 号	第 44804 号
社団 法人	土 木 学 会
附属	土 木 図 書 館

資 料 目 次

開催主旨

○部会報告

設計技術検討部会	－ 1
施工技術検討部会	－39
防災システム検討部会	－49

○パネル討論会：Part I 「こう活かせる……大震災の教訓－耐震設計編」

兵庫県南部地震の教訓は耐震技術に生かされつつあるか？	
東京工業大学工学部土木工学科教授 川島 一彦	－71
阪神・淡路大震災の教訓を活かそう	
(財)沿岸開発技術研究センター理事長 野田 節男	－75
兵庫県南部地震の教訓を耐震設計に生かすために	
(財)鉄道総合技術研究所・構造物技術開発事業部部長 西村 照彦	－77
耐震設計技術の高度化に如何に対応すべきか？	
日本技術開発(株)土木本部副本部長 佐伯 光昭	－81

○パネル討論会：Part II 「こう活かせる…大震災の教訓－復旧工事・防災システム編」

大震災の教訓を生かす	
西日本旅客鉄道(株)建設工事部次長 西川 直輝	－85
受注者の立場から	
清水建設(株)土木本部設計第一部部長 藤田 親	－87
地震防災情報システム(DIS/Earthquakes)の整備について	
国土庁防災局震災対策課課長 岡山 和生	－89
防災システムの立場から	
名古屋工業大学社会開発工学科教授 山本 幸司	－91

開催主旨

阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会（委員長 廣田良輔土木学会副会長）は平成7年10月に発足し、委員会での検討を重ねると共に、三つの部会を設け、

- （１）耐震設計法の改訂に実務者が的確に対応するにはどのような課題があるか、
- （２）復旧・復興工事にあたり現場はどのような苦勞をし、どのような課題を残したか、
- （３）地震発生時にどのような危機管理がおこなわれ、今後どのようなシステムの改善を図ればよいか、

などの疑問に応えるための調査研究を行ってまいりました。

このたび、当研究委員会はフォーラムを開催し、多くの方々にこれまでの活動をご報告するとともに、パネル討論を行って、今後の大地震に対応する具体的な方策のあるべき姿についてご意見を伺い、共に議論することと致しました。

この資料の前半、すなわち「部会報告要旨」の部分は、当研究委員会が3部会に分かれて調査研究した成果を中間的にとりまとめたものです。各位から忌憚ないご批判を頂いて内容の充実を図り、今後取りまとめる委員会報告に反映したいと考えております。資料の後半は、パネル討論会に登壇し話題提供していただくパネリストの方々に、ご発言の要旨を取りまとめていただいたものです。パネル討論の際に大変参考になるかと存じます。

なお、同じフォーラムを2月13日に大阪で開催いたします。部会報告の部分は東京と同じになりますが、パネリストには関西在住の次の方々が登壇される予定です。

大阪会場でのパネリスト

PART-1 稲垣紘史（沿岸開発技術研究センター）

園田恵一郎（大阪市立大学工学部）

友永則雄（建設技術研究所）

丸山忠明（大阪市建設局土木部）

PART-2 安藤嘉茂（神戸市復興本部総括局）

出口正義（阪神高速道路公団工務部）

畑 昭雄（大林組神戸支店土木工事部）

松井 保（大阪大学工学部）

敬称略、アイウエオ順